

平成21年度第1回川崎市事業評価検討委員会に係る審議結果を踏まえた 今後の取り組みについて

平成21年10月5日に川崎市事業評価検討委員会 輿水肇会長から市長あて提出された平成21年度再評価実施事業の審議結果について、各事業の今後の取り組みを報告いたします。

川崎都市計画道路事業 荻宿小田中線（期）

【市の対応方針案】

継続

【委員会の審議結果】

継続が妥当と判断

【委員からの意見】

1 安全安心の確保について

近年の全国的な想定雨量以上の豪雨による道路の冠水や、夜間時のトンネル内における悲惨な事件など、市民の安全安心を脅かすような事件事故が報じられている。本線においても、こうした事件事故による被害の防止に向けて、一般的に必要なとされる法令等の基準を満たした設備を整備することはもとより、想定以上の事態にも配慮した対応策を講じていく必要がある。

2 交通量推計について

平成42年度の将来交通量推計結果について、再評価対象路線である荻宿小田中線及び本線が接続する宮内新横浜線や東京丸子横浜線などの周辺道路への影響も含め、市民に対し分かりやすく説明をできるよう推計データの内容を再確認し、整理しておくこと。

3 事業完了について

踏切除却による事故防止、交通の円滑化などの事業効果を発現させるため、用地買収を速やかに行い、事業完了予定年度である平成23年度に向けて取り組むこと。

取り組み

1 安全安心の確保について

現在、大雨が予測される場合には、パトロールや自動通報装置などにより、アンダーパス部の道路状況やポンプの稼働状況を監視しておりますが、想定雨量以上の豪雨により冠水が確認された場合には、交通管理者及び消防局等と連絡を取り合い、協議のうえ通行止めなどの対応をしております。また、アンダーパス部の歩道については、照明施設を設けるとともに壁面に壁画を施し雰囲気を明るくするなど、事件事故の防止を図ることで、市民の安全安心の確保に努めます。

2 交通量推計について

推計データの内容を再確認し、より分かりやすい説明資料の整理を行います。

3 事業完了について

早期に事業効果を発現できるよう、引き続き、事業の必要性や重要性を土地所有者及び関係人に説明し、平成23年度の完成を目指し、用地の取得に努めます。